



春風の心地よい季節になりました。

Japanese-style room

和室



今回は、最近変わりつつある「和室」の考え方についてご紹介したいと思います。

●和室は多目的に活用可能な日本の伝統を身近に感じられる空間

洋室は、ベッドを置いてしまうと寝室としての用途しかありませんが、和室の場合は、布団を押し入れにしまえば、そこで食事をしたり、応接間や客間としても使うことができます。また、仏間として先祖を祭る場にと、多目的に活用できるのが最大の魅力です。ただし、和室は洋室と比べると施工に手間がかかり、コスト高になってしまうという点がありますが、日本の伝統を身近に感じられる空間として徐々に見直されてきています。

●高温多湿の日本の風土が生んだ 優れた畳の機能性

日本の長い歴史の中で発展してきた和室文化を象徴する畳。高温多湿の日本の風土から生み出された畳は、吸音性や吸湿性、断熱効果に優れ、じめじめとした梅雨や暑い夏を過ごしやすく、快適に暮らせるよう、自然の影響を受け入れるような工夫がされています。

●現代の日本人にマッチする「和モダン」畳スペース

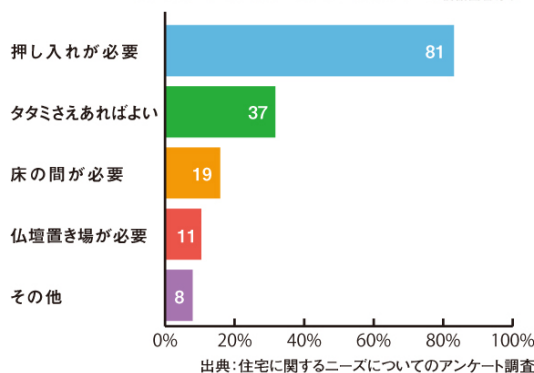
洋風の住宅に昔ながらの和室を作ると、ほかの部屋との隔たりが大きく、どうしても違和感を感じてしまいます。そこで最近では、自由に和室の良さを楽しむ「和モダン」な畳スペースを部屋の一角につくるケースが増えているようです。例えば、フローリングの上に縁のない半畳タイプの畳を畳表の目を互い違いになるように敷きこんで市松模様になると、洋風のリビングに違和感なく馴染み、とてもモダンな感じのする畳スペースができあがります。和のテイストを感じられる現代風の「和モダン」な畳スペースは、多様化した現代の日本人の生活にぴったりマッチするのではないのでしょうか？

和室に求めるものは？



和室に対するニーズでは、53%が「必要」と答え、「不要と思ったが、今は必要」と合わせると67%の人が必要だと考えているようです。また、「どのような和室が必要か？」という問いに対しては、「押し入れが必要」と答えるケースが目立ちました。布団を敷く文化の日本では、押し入れがないと不便を感じてしまうのかもしれませんが、「タタミさえあればよい」という意見も多く、最近、新築される住宅では、和室ではなく、LDKの一角にタタミスペースを設置する例も多くなっています。

どのような和室が必要か？ ※複数回答あり



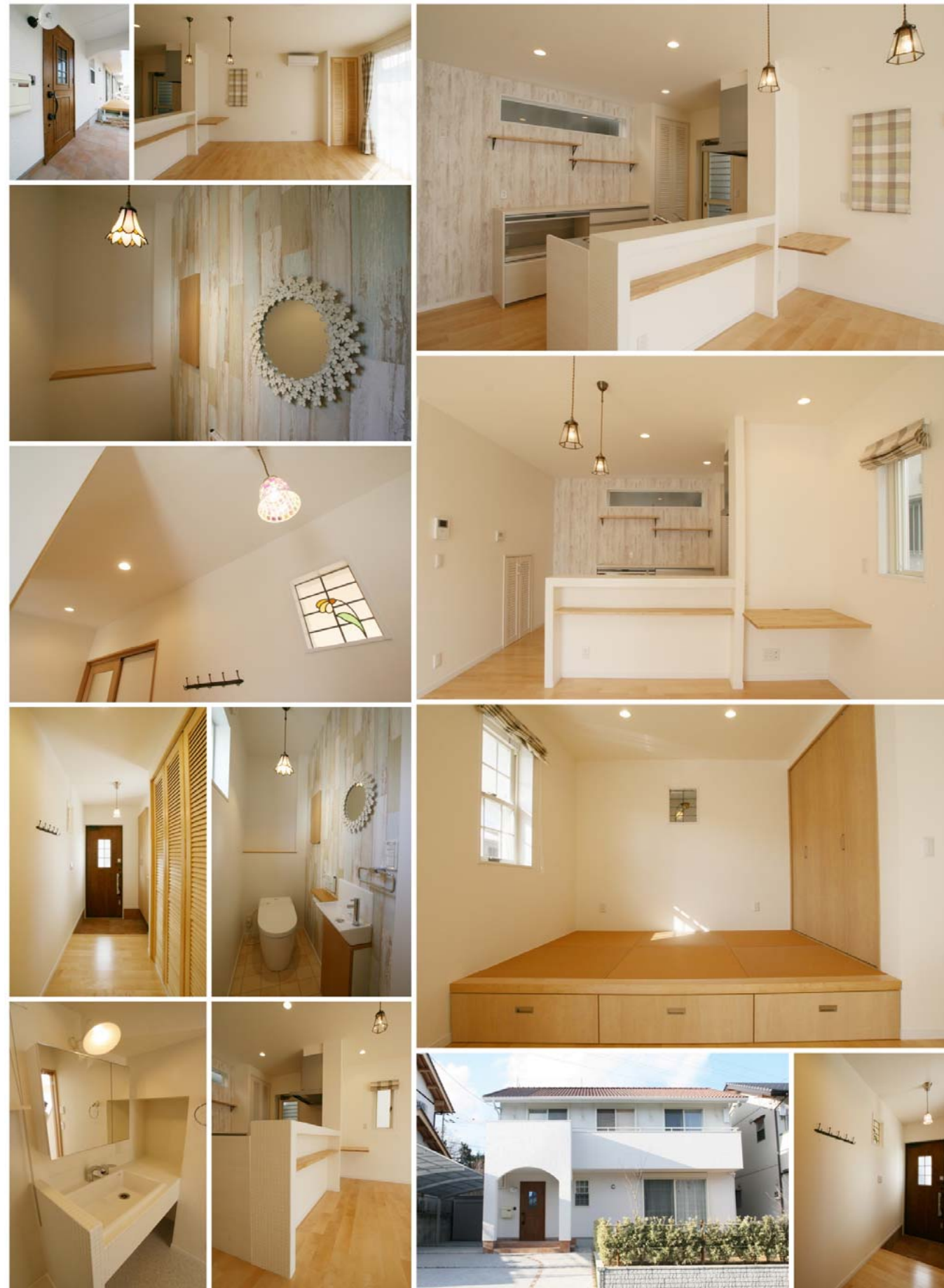
Masuoka News

益岡工務店からのお知らせ

- ① 竣工後・リフォーム後のお宅に不具合はございませんでしょうか？
ご入居後も末永く快適に過ごして頂くために、何かございましたらいつでもお気軽にご相談ください。
- ② 情報誌「Wish」も発行からもうすぐ10年が経ちます。毎月のご愛読ありがとうございました。今後は、リニューアルし年4回の発行とさせていただきます。

New houses completed

新しいお家が完成しました



高知市で、S邸が完成しました。キッチンと洗面カウンターは白いモザイクタイルで造りました。照明ペンダントやステンドグラスなどは奥様が選ばれたものです。